# 第６回　松原・下筌・大山ダムとともに水害に強い地域づくりを考える意見交換会

日時：令和８年１０月２３日（金）１４時００分～

場所：日田市役所 本庁舎７階 大会議室

＜ＷＥＢ配信有り＞

次　　第

１．　開 会

２．　挨拶　筑後川ダム統合管理事務所　事務所長

意見交換会　委員長　小松　利光

日田市長　椋野　美智子

３．　出席者紹介

４．　議事

１）　令和８年４月２６日緊急放流サイレン吹鳴訓練の報告

２）　避難に備えた図上訓練の報告

３）　他地区の避難の取組の紹介

４）　意見交換

５）　大山ダムにおける防災に関する取組の報告

６）　その他

５．　閉会

# 「松原・下筌・大山ダムとともに水害に強い地域づくりを考える意見交換会」規約

（名称）

第１条　本会は、「松原・下筌・大山ダムとともに水害に強い地域づくりを考える意見交換会（以下「意見交換会」という。）」と称する。

（目的）

第２条　本意見交換会は、水害から地域にお住まいの方の生命や財産を守る立場から、筑後川（大山川）及び赤石川の出水に対する、松原・下筌・大山ダムの洪水調節状況やその効果等について、様々な視点から意見交換する。この意見交換会での検討により，地域防災力の更なる向上を図る。それと合わせて，ダム下流の河川環境の現状や課題についても意見交換し，よりよい河川環境の創出に繋げていくことを目的とする。

（構成）

第３条　　本意見交換会は、別表に掲げる者（以下「委員」という。）によって構成されるものとし、委員は筑後川河川事務所長若しくは筑後川ダム統合管理事務所長が委嘱し、非常勤とする。

２　委員長は、必要に応じて、委員の増員及び専門家、オブザーバー等の招集を行うことができる。

（意見交換会）

第４条　本意見交換会には、委員長を置く。

２　委員長は、意見交換会を代表し、会務を総括する。

３　委員長は、委員の互選によってこれを定める。

４　委員長が意見交換会に出席できない場合は、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

５　本意見交換会は、委員長が招集する。

（事務局）

第５条　本意見交換会の事務を行うため、事務局を国土交通省九州地方整備局筑後川河川事務所及び筑後川ダム統合管理事務所に置く。

（雑則）

第６条　この規約に定めるもののほか、意見交換会の運営に必要な事項は、委員長が意見交換会に諮って定める。

（付則）

この規約は、令和４年３月３０日から施行する。

令和４年１２月１９日一部改正。

## 松原・下筌・大山ダムとともに水害に強い地域づくりを考える意見交換会

### 委員名簿

| | 氏　名 | 現　職　名 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| 1 | 小松　利光 | 九州大学　名誉教授 | 学識者　　委員長 |
| 2 | 山田　誠 | 鹿児島大学　名誉教授 | 学識者 |
| 3 | 鶴成　悦久 | 大分大学　教授 | 学識者 |
| 4 | 椋野　美智子 | 日田市　市長 | 地元自治体 |
| 5 | 小野　孝信 | 日田市住民代表（おおやま北部自治会長） | 大山振興局 |
| 6 | 諫山　弘美 | 日田市住民代表（おおやま中央自治会長） | 大山振興局 |
| 7 | 横田　秀喜 | 日田市住民代表（おおやま老松自治会長） | 大山振興局 |
| 8 | 岩里　文雄 | 日田市住民代表（おおやま西峰自治会長） | 大山振興局 |
| 9 | 長尾　善太郎 | 日田市住民代表（おおやま都築自治会長） | 大山振興局 |
| 10 | 三笘　靖彦 | 日田市住民代表（おおやま烏宿自治会長） | 大山振興局 |
| 11 | 矢幡　俊典 | 日田市住民代表（おおやま清流自治会） | 大山振興局 |
| 12 | 吉野　正照 | 日田市住民代表（おおやま南部自治会長） | 大山振興局 |
| 13 | 佐藤　天親 | 日田市住民代表（出口自治会長） | 天瀬振興局 |
| 14 | 松原　喜美子 | おおやま南部自治会 | 大山振興局 |
| 15 | 朝倉　真紀 | おおやま中央自治会 | 大山振興局 |
| 16 | 梶原　和廣 | 大山すみいい会　会長 | 大山振興局 |
| 17 | 松尾　寿一 | 大分県　日田土木事務所　所長 | 河川管理者（赤石川） |
| 18 | 仲道　貴士 | 独立行政法人　水資源機構　筑後川局　局長 | ダム管理者（大山ダム） |
| 19 | 谷川　知実 | 国土交通省　筑後川河川事務所　事務所長 | 河川管理者（筑後川） |
| 20 | 川邉　英明 | 国土交通省　筑後川ダム統合管理事務所　事務所長 | ダム管理者（松原・下筌ダム） |

（事務局）
国土交通省　筑後川河川事務所
国土交通省　筑後川ダム統合管理事務所

松原・下筌・大山ダムとともに水害に強い地域づくりを考える意見交換会

出席者名簿

| | 氏　名 | 現　職　名 | 備　考 | 出欠 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 小松　利光 | 九州大学　名誉教授 | 学識者　　委員長 | 出席 |
| 2 | 山田　誠 | 鹿児島大学　名誉教授 | 学識者 | 出席 |
| 3 | 鶴成　悦久 | 大分大学　教授 | 学識者 | 出席 |
| 4 | 椋野　美智子 | 日田市　市長 | 地元自治体 | 出席 |
| 5 | 小野　孝信 | 日田市住民代表（おおやま北部自治会長） | 大山振興局 | 出席 |
| 6 | 諫山　弘美 | 日田市住民代表（おおやま中央自治会長） | 大山振興局 | 出席 |
| 7 | 横田　秀喜 | 日田市住民代表（おおやま老松自治会長） | 大山振興局 | 欠席 |
| 8 | 岩里　文雄 | 日田市住民代表（おおやま西峰自治会長） | 大山振興局 | 欠席 |
| 9 | 長尾　善太郎 | 日田市住民代表（おおやま都築自治会長） | 大山振興局 | 欠席 |
| 10 | 三笘　靖彦 | 日田市住民代表（おおやま烏宿自治会長） | 大山振興局 | 出席 |
| 11 | 矢幡　俊典 | 日田市住民代表（おおやま清流自治会） | 大山振興局 | 出席 |
| 12 | 吉野　正照 | 日田市住民代表（おおやま南部自治会長） | 大山振興局 | 出席 |
| 13 | 佐藤　天親 | 日田市住民代表（出口自治会長） | 天瀬振興局 | 出席 |
| 14 | 松原　喜美子 | おおやま南部自治会 | 大山振興局 | 出席 |
| 15 | 朝倉　真紀 | おおやま中央自治会 | 大山振興局 | 欠席 |
| 16 | 梶原　和廣 | 大山すみいい会　会長 | 大山振興局 | 出席 |
| 17 | 松尾　寿一 | 大分県　日田土木事務所　所長 | 河川管理者（赤石川） | 出席 |
| 18 | 仲道　貴士 | 独立行政法人　水資源機構　筑後川局　局長 | ダム管理者（大山ダム） | 出席 |
| 19 | 松本　秀一 | 国土交通省　筑後川河川事務所　総括地域防災調整官 | 河川管理者（筑後川） | 出席 |
| 20 | 川邉　英明 | 国土交通省　筑後川ダム統合管理事務所　事務所長 | ダム管理者（松原・下筌ダム） | 出席 |

（事務局）

国土交通省　筑後川河川事務所

国土交通省　筑後川ダム統合管理事務所

# 意見交換会の概要

**【開催趣旨】**

〇令和2年7月、筑後川流域では記録的な豪雨により各地で浸水被害が発生。下筌ダムでは、「緊急放流」を実施。
〇幸い、松原ダムが緊急放流とならなかったため、松原ダムの直下流では河川氾濫による浸水被害は発生していない。
〇地球温暖化に伴う洪水の激甚化、計画規模を超える洪水の発生等、水害のリスクが大きく高まっている。
〇このような状況の中、水害から生命や財産を守っていくため、地域と学識者、河川管理者、ダム管理者等が一体となった、「松原ダム・下筌ダム・大山ダムとともに水害に強い地域づくりを考える意見交換会」を令和3年度より設立。
〇第2回は、ダム下流の河川環境の現状や課題、第3回は、避難行動に繋げるための様々な取組、第4回は、緊急放流時のサイレンや情報提供のあり方、第5回も、緊急放流時のサイレンや情報提供のあり方について意見交換を行った。

**■これまでの開催経緯**

令和4年　3月30日　第1回　意見交換会　議事
- ・最近の九州における気候変動状況等について
- ・避難につながる取り組みについて
- ・次回開催について

↓

令和4年12月19日　第2回　意見交換会　議事
- ・ダム下流の河川環境について
- ・地域防災力の向上について

↓

令和5年10月10日　第3回　意見交換会　議事
- ・令和5年7月洪水について
- ・避難行動に繋げるために
- ・自治会での防災に関する取組状況について

↓

令和6年　6月　3日　第4回　意見交換会　議事
- ・サイレン吹鳴訓練について
- ・情報提供のあり方について

↓

令和7年　5月23日　第5回　意見交換会
- ・サイレン吹鳴訓練について
- ・情報提供のあり方について

↓

令和8年10月23日　第6回　意見交換会（今回）



第５回　開催状況

# これまでの成果

成果

**意見交換会発足**

行政からの情報提供

第1回 ～ 第3回

ダムの緊急放流について、
下流住民の理解を得たい
↳ 住民の理解・協力

→ **意見交換会発足**

**緊急放流の周知**

住民の意見の反映

第4回 ～ 第5回

緊急放流のサイレンを聞きたい → **サイレンの訓練の実施（一部）**

緊急放流のサイレンを全域でやるべき → **サイレンの訓練の実施（全域）**

サイレンが聞こえない → **防災ラジオの活用**

**避難の課題共有**

課題に対する対応
国・県・市の連携
地域特性を踏まえた訓練

第６回～

大分大学の学生の参加
国・県・市の連携

避難の方法やタイミング、
または避難の課題を知ってほしい
↳ 住民・国・県・市で意見交換

→ **住民の皆さんと図上訓練を実施（ﾀｲﾑﾗｲﾝを作成）**

**避難の訓練**

実効性のある訓練
継続的な意見交換

**緊急放流の理解**

緊急放流を知る
なぜ避難が必要か

**確実な避難**

・今後、避難に関する実効性のある訓練へ
・地域の特性（土砂災害にも注意が必要）
・地域を基点とした横断的な意見交換
⇒継続してやっていくためにどうすればいいか